

【カリキュラム・マネジメントの3つの側面】

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

カリキュラム・デザイン

②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

PDCAサイクルの確立

③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

内外リソースの活用

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。【カリキュラム・デザイン】

育成を目指す資質・能力を明確にし、共通理解を図るとともに、資質・能力の育成に向けた単元計画を作成・共有する事例

大分大学教育学部附属小・中学校

目標を実現するためにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力(附属小・中学校)

R3.4.1

総合的な学習の時間	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	地域のもの、このことに関する探究的学習の過程において、問題解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特色やよさを捉え、それらが内なる魅力や文化によって生み出されていることを理解できるようにする。	地域のもの、このことから、問題解決に資する、課題を立て、情報を集め、観点から見て整理し、判断したりすることや課題を立案するとともに、果たしたことを振り返りながら学びを深めることができるようにする。	地域のもの、このことについての探究的学習に主体的に取り組むとともに、対象と向き合い、その価値や意義を捉え、その価値や意義を表現したりする中で、学んだことや自分のよさや強さを、それを活かして自らすすんで地域社会に関わり、社会を良くしていくとする態度を養う。

段階	探究課題	資質・能力が身につく児童・生徒の姿					
		小1・小2	小3	小4	小5	小6	中1
視点	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
A 理解しているか (生活で働く知識・技能の習得)	知識・技能	地域のもの、人や文化に対する思い・関心・理解を深め、その価値や意義を捉え、その価値や意義を表現したりする中で、学んだことや自分のよさや強さを、それを活かして自らすすんで地域社会に関わり、社会を良くしていくとする態度を養う。	地域のもの、人や文化に対する思い・関心・理解を深め、その価値や意義を捉え、その価値や意義を表現したりする中で、学んだことや自分のよさや強さを、それを活かして自らすすんで地域社会に関わり、社会を良くしていくとする態度を養う。	地域のもの、人や文化に対する思い・関心・理解を深め、その価値や意義を捉え、その価値や意義を表現したりする中で、学んだことや自分のよさや強さを、それを活かして自らすすんで地域社会に関わり、社会を良くしていくとする態度を養う。	地域のもの、人や文化に対する思い・関心・理解を深め、その価値や意義を捉え、その価値や意義を表現したりする中で、学んだことや自分のよさや強さを、それを活かして自らすすんで地域社会に関わり、社会を良くしていくとする態度を養う。	地域のもの、人や文化に対する思い・関心・理解を深め、その価値や意義を捉え、その価値や意義を表現したりする中で、学んだことや自分のよさや強さを、それを活かして自らすすんで地域社会に関わり、社会を良くしていくとする態度を養う。	地域のもの、人や文化に対する思い・関心・理解を深め、その価値や意義を捉え、その価値や意義を表現したりする中で、学んだことや自分のよさや強さを、それを活かして自らすすんで地域社会に関わり、社会を良くしていくとする態度を養う。
	① 課題の設定	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
	② 情報の収集	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
	③ 整理・分析	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
	④ まとめ・表現	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
B 理解していること・できること(思考・判断力・表現力等の育成)	⑤ 主体的・協働性	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
	⑥ 自己理解	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
	⑦ 他者理解	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
	⑧ 社会参画・将来展望	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿
	⑨ 主体的・協働性	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿	育質・能力が身につく児童・生徒の姿

小学校総合的な学習の時間の単元計画【第3学年1組】(70時間)	
探究課題	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。
単元名	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。
単元目標	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。
単元名	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。
単元目標	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。
単元名	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。
単元目標	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。
単元名	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。
単元目標	ふるふるの歴史を調べ、自分たちのふるふるを作った活動を通して、ふるふるには多様な種類や用途があること、ふるふるの歴史や文化、生活の発展について考え、伝統的技術の継承を大切にしていくこと。

資質・能力の系統表を作成・共有

各教科等との関連を明記した単元計画等を共有

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。【カリキュラム・デザイン】

学年団で単元計画を見直し、各教科等との関連を明確にするワークショップを実施

臼杵市立西中学校



このワークショップでは、活用する教育資源も出し合って確認しています。

【ワークショップの時期：年度当初】

【ワークショップの進め方（例）】

- ①各学年の総合的な学習の時間の年間指導計画をA3に拡大し、模造紙の中央に貼り付ける。
※学年部で検討する。
- ②各自、当該学年の教科書を持ち寄り、他教科等との関連を検討。
★資質・能力の活用・発揮
★内容面の関連
が明確になるようにするとよい。
いずれも具体的に記述することが大切。
- ③②で出し合った内容等を検討し、年間指導計画を修正して実践に備える。

②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。【PDCAサイクルの確立】

単元計画の実施状況を確認して成果と課題を明確にし、次年度につなぐ取組

中津市立中津中学校



職場選択・連携
について

各教科等との
関連について

取組の成果
について

探究プロセス
について

授業設計に
ついて

【ワークショップの時期：年度末】

【ワークショップの進め方：学年部】

- ①総合的な学習の時間の単元計画をA3に拡大し、模造紙の中央に貼り付ける。
- ②単元の実施状況を付箋紙に書き出す。
成果……水色付箋
課題……ピンク付箋
改善案…黄色付箋
※付箋には具体的に書き出す。
※付箋は分類してまとめる。
- ③②で出し合った内容等を検討し、単元計画を修正する。（データ化して保存する）
- ④次年度早々に、新学年部で③の単元計画を確認する。

②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。【PDCAサイクルの確立】

単元計画の実施状況を確認して成果と課題を明確にし、**次年度につなぐ**取組

臼杵市立西中学校

研究主任より、次の点を確認

- ★教育課程の編成は全教職員の協力のもとに行うこと
- ★創意工夫を生かした教育課程編成のため、学級や学年、教科等の枠を超えて教師同士が連携協力すること
- ★「生徒の姿」で検証・改善していくこと

【授業実施後の研修会の流れ（例）】

- ①教科等横断的な視点で単元を振り返る
（例）総合担当・社会担当・国語担当・特活担当
- ②本時を振り返る
- ③質疑
- ④本時・単元について、「生徒の姿」で検証する
○よかったところ △改善が必要なところ
- ⑤各学年の年間指導計画を見直す
△見直すべきところ、改善すべきところを付箋に書いて貼る
※どのように改善していくのか、具体的に書く。

③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。【内外リソースの活用】

学習活動や教育資源の活用について、**教材を拡散的・多角的に検討する**取組

豊後大野市立三重中学校

【ワークショップの進め方（例）】

- ①中心となる学習対象を模造紙の真ん中に書く。
- ②学習対象から想定される学習活動や生徒が関わる対象、関連する各教科等を、①の周りに書く。
 - ★ピンク付箋・想定される学習活動
 - ★水色付箋・生徒が関わる対象
（内外の教育資源）
 - ★黄色付箋・関連する教科等※内外の教育資源については、具体的な名称で書き出す。（施設、人物名、場所など）
※②では、思いついたらとにかく書く。実現可能性はあとで検討する。
- ③②で書き出した内外の教育資源について、学年ごとにデータ化してまとめる。
 - ※具体的な名称、連絡先などを記入しておく。
 - ※単元を実施していく中で新たに活用した教育資源の情報は、③のデータに追記していく。
 - ※③のデータは当該年度末に実績として残し、次年度の単元計画作成に生かす。

③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。【内外リソースの活用】

総合的な学習の時間における教育資源の活用を積極的に進める取組

佐伯市立佐伯城南中学校

「ふるさと佐伯の魅力発見！」地域別学習会

～その地域のスペシャリストをお招きして～
 ○自分の選んだ地域について詳しいお話を聞き、その地域の魅力を見つけよう。
 ○探究するテーマを考え、実際に見学するルートを決めよう。

●月●●日(金) 5・6限
 13:10～ 各教室で準備(担当教師)
 13:30～ 打ち合わせ(コミュニティー) ※校長・学年長
 13:35 各教室に移動

地域	現地まで	現地	準備物	講師	場所	人数	担当
上浦 32-3111			バ SP	上浦振興局 ○○ ○○さん ○○ ○○さん	1-4	16	教員
米水津 35-6111			バ持参 SP	米水津振興局 ○○ ○○さん	1-3	15	教員
鶴見 33-1111			無し 資料持参	鶴見振興局 ○○ ○○さん ○○ ○○さん	理科第2	13	教員

「地域別調査活動」実施について 令和3年

- 日時 令和3年●月●日(金) 8:00～16:00
- 訪問場所 上浦、弥生、本匠、宇目、直川、鶴見、米水津、蒲江
- 引率者 1学年部教員 9名
- 参加生徒 1学年 117名
- ルートごとの移動手段と日程
 - ① 上浦(佐伯タクシー) 16名+引率者(●●●●)
 - 【往路】学校(9:00)→ 振興局(9:30)→豊後二見浦→晴嵐の滝(10:20)→マリノ公
いいなめファーム(11:25)→大浜公園(12:50)→瀬海水浴場(13:40)
【復路】しおさいの里(14:15) → 学校(15:30)
 - ② 弥生(公用車) 11名+引率者(●●●●)
 - 【往路】学校(8:40)→ フットパス(9:00)→ 道の駅やよい(10:00)→クワンカドー
【復路】(有)たかはし(15:30) → 学校(16:00)

【佐伯城南中学校の取組】

- (1) 探究課題
- ①ふるさと佐伯の魅力とその継承・発信に取り組む人々や組織の思いと創意工夫、課題解決の意義
 - ②働くことの意義と働く人の夢や願い、ふるさとへの思い二つを相互に関連付けて単元を構想

- (2) 教育資源の活用(外部人材活用)
- ①佐伯市役所観光課、観光協会から講師を招き、佐伯における観光の現状等についての講演会を実施。
 - ②佐伯市旧郡部8地区の振興局職員から、その地域の特徴等の講話を聴く機会を設定。
 - ③講話後、現地見学ルートや学習テーマ当を生徒が検討。
 - ④外部講師のリスト、当日の実施要項等はデータにして学校全体で共有。

- (3) 体験活動の充実
- 公共交通機関を使用して佐伯市旧郡部8地区に出向き、フィールドワークや講師からの講演を実施。
 (学年部等9名体制で引率)

③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。【内外リソースの活用】

総合的な学習の時間における教育資源の活用を積極的に進める取組

豊後高田市立田染中学校

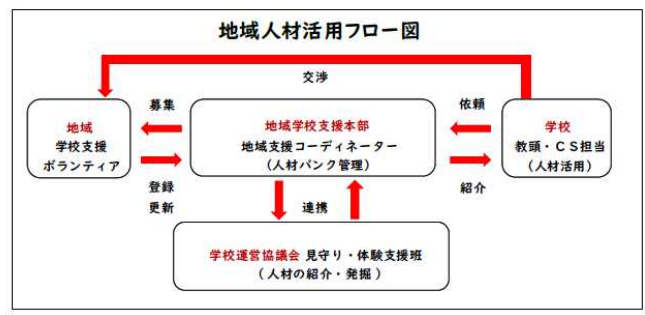
物的資源

有形	無形
文化財(富貴寺・真木大堂・熊野磨崖仏等)	田染音頭・田染民謡
田染公民館	田染公民館祭
田染荘	御田植祭・収穫祭
世界農業遺産(しいたけ・ため池・クヌギ)	伝統の技(しめ縄・ハ反ずり体験)
交流館「蔵人」	盆踊り大会
豊かな自然	卒業・進級記念植樹

人的資源

活動内容	協力者
田染民謡・田染音頭	田染民謡保存会・太鼓指導者
田染荘御田植祭・収穫祭	小嶋地区実行委員
田染地区盆踊り	田染を愛する会委員
公民館祭	公民館館長
ハ反ずり	藤村組
野鳥観察	日本理文大学教授
しめ縄づくり	校区内の講師・高齢大学
しいたけコマ打ち体験	小嶋地区関係者
そば打ち体験	田染地区食推協・校区内講師
田染サミット	学校運営協議会委員
文化財清掃	富貴寺・真木大堂・熊野磨崖仏の関係者
地域の清掃活動	自治委員長

地域人材活用フロー図



【豊後高田市立田染中学校の取組】

- 教育課程の実施に必要な教育資源の確保について
 - ・田染地区の物的資源をまとめたり、豊後高田市田染地域学校支援本部の地域支援コーディネーターの協力を得て、指導者を紹介してもらったりしている。
 - ・地域人材活用フロー図を作成し共有している。
- 教育資源の確保及び維持
 - ・地域人材の実際の活用については、紹介してもらった指導者と学校側が直接交渉し、日時や内容を決めている。
 - ・学校支援ボランティア登録者は101名。(環境整備・66名、見守り・体験支援35名)
 - ・学校支援ボランティアは、学校運営協議会の見守り・体験支援班とも関連しており、学校運営協議会の中でも、ボランティア登録の呼びかけや新たな人材の発掘について協議している。
 - ・小中連携会議の伝統文化部会では、活動の記録を残し、人事異動で担当者が変わっても対応できるようにしている。